

光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2016年11月号>

116号 2016.11.01 配信

鳥取地方を中心とする地震で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

10月20日(木)、女性で初めてエベレストや七大陸最高峰の登頂に成功した田部井淳子さんがご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(1962年 文家政学部 英米文学科卒)

■ 同窓会だより

本年も光葉同窓会は、大学で開催される秋桜祭に参加いたします。

皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご来場ください。お待ちしております。

○第24回 秋桜祭『つなぐ』 光葉同窓会参加内容

日時：11月12日(土)、13日(日) 10:00～15:30

会場：大学3号館1階教室、玄関ホール、学生ラウンジ

[パネル展示] ◆「人見楠郎先生 生誕100年に寄せて」

◆ワーキングネットワーク活動報告 ◆生涯学習グループ活動報告

[バザー] 収益金は、在学生の奨学金に充てられます

◆全国50支部、同窓生有志、同窓会本部(提供品・手作り品・同窓会グッズ等)

[子どもゲームコーナー] ◆沢山の景品が用意されています

■ 学園だより

○故人見楠郎第2代理事長の祭壇設置

11月4日は人見楠郎第2代理事長のご命日です。人見楠郎元理事長のご遺徳を偲び

11月4日(金)から13日(日)まで、学園本部館1階ロビーに祭壇が設けられます。

○墓前祭 11月9日(水)

○秋の特別展「相模人形芝居の世界」

【開催期間】10月22日(土)～11月26日(土) 【開館時間】10:00～17:00

【休館日】日曜日・祝日 但し11月13日(日)は開館

【会場】昭和女子大学光葉博物館 【入場料】無料

人間の寿命限界は、何歳？

先ごろ米研究チームは統計的に、世界最高齢は125歳が限界と発表し、人間の寿命には、自然の限界があることが示唆された。人体をつくる細胞には寿命があり、これには染色体の「テロメア」とよばれる塩基配列が関わっている。このテロメアの長さが短くなると慢性疾患を発症し、老化が進むそうである。これを長くするには、健康的な食事と運動、ストレス管理が有効との報告もある。

食事では、カロリーを抑え、全粒粉の穀類、野菜、果物、豆類などの植物性食品を中心に、脂肪の多い動物性食品や精製された炭水化物を控えめにするといよさうである。

■ 広げよう光の葉

金谷美智子さん

1975年 文家政学部生活科学科

(埼玉県支部)

大学卒業後、群馬での教員採用は叶わず4月になって埼玉県の教育委員会に行きました。丁度、4月いっぱい退職をする先生がいるということで旧大宮市の中学校教員になりました。即本採用と今では考えられないことで、ラッキーなことでした。就職後、大学時代にやっていた茶道を続けたいと教室を探していたところ、保護者の方から教えていただき習い始めました。就職をして2年目の1976年秋、光葉同窓会埼玉県支部会発足の会に連絡をいただき、出席しました。田部井淳子さんがエベレストに登頂したあとで、スライドを見せていただきながらお話を伺ったのが印象深く残っています。その後、毎年支部会の連絡をいただいていた。ある年支部会に出席したところ、お茶を一緒に習っていたお二人の方に出会いびっくりしました。一人は勤務していた学校の保護者、もう一人も先輩という同窓の方だったのです。

結婚してからは、仕事と子育てに追われ出席できる機会は減りました。子供が大きくなってきたころ赴任したある中学校で、保護者の一人でもあり、英語科の支援員として勤務していた田中さんが一歳下の同窓生とわかりました。家も同じ区内ということで、埼玉県支部会に二人で出られるようになりました。そのうちに幹事を勧められ二人で引き受けることになりました。

2005年の支部会から、坂下支部長の元9年間幹事を務めることとなりました。この間、会には出席できなくても毎年きちんと返事を下さる方や会費を振り込んでくださる方など顔は見えなくても多くの方々と交流が持てました。

ある時、大学1年生の時桂寮で一緒に生活をした美学の先輩の名前を見つけました。徳島の出身とは聞いていましたが、先輩が3年生になり寮を出られた後は、学内でめったに会うこともなく卒業後もどうされていたのか全然知りませんでした。同じ市内に住んでいたんだあと懐かしい気持ちになり連絡をとりました。

そして、昨年、科のクラス会を徳島の阿波踊り見物をメインに行うことが決まっていた。先輩はご主人の退職を機に、こちらの家をまだ残しご夫妻の故郷の徳島県に戻っていたのです。徳島行きを連絡して、40年ぶりに徳島でお目にかかることができ市内見物や昼間の阿波踊りのショーなどを見せていただきました。

退職してからは食生活改善推進員として、食を通して健康づくりを推進するボランティアをしています。そこで、支部会を通して知りあった先輩や後輩に活動を知らせると、食生活改善推進員として仲間に入ってくれました。こうして次々に同窓の和が広がって行き、埼玉県支部会の幹事として9年間お手伝いしてきたことは、『絆』というかけがえのないものとなりました。

田部井淳子様のご逝去の報に接し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

End